



ITIL[®] ファンデーション ブリッジ

バージョン5

グローバルベストプラクティス



デジタルプロダクトおよびサービスで価値創出を
目指す全ての組織と人々へ!

シラバス

PeopleCert Plusで
特別な特典を
入手しよう!

今すぐ参加しよう!



公式トレーニング資料

発行: PeopleCert International Limited
キプロスにて出版
ギリシャ国内にて電子的に印刷、または複製された出版物

バージョン 5.0 (2026年2月)

Copyright © 2026 PeopleCert International Limitedおよびその関連会社 (「PeopleCert」)

無断複写・転載を禁じます。本書のいかなる部分も、また本書に含まれる情報も、PeopleCertによって許可された場合を除き、複製、配布、開示、または使用することはできません。クリエイティブコモンズライセンスの下にあると特定された情報は、そのライセンスに従って使用することができます。ITIL®、PRINCE2®、DEVOPS INSTITUTE®、LANGUAGECERT®、およびSwirlロゴはPeopleCertの登録商標です。

免責事項

本書は、読者に有用な情報を提供することを目的としています。PeopleCertは本書の作成にあたり細心の注意を払っていますが、本書に含まれる情報または助言の完全性、正確性、または適合性について、PeopleCertはいかなる（明示であるか黙示であるかを問わず）表明または保証を行うものではなく、かかる情報または助言に関連して生じたいかなる損失または損害についても、PeopleCertは一切の責任を負わないものとします。

1. はじめに

ITIL® ファンデーションブリッジ (バージョン5)は、ITIL 4 ファンデーション認定資格（またはクラウドおよび持続可能性を除く任意のITIL 4上位レベル認定資格）をすでに取得しており、ITIL ファンデーション (バージョン5)へ移行したいと考えている受験者を対象としています。このブリッジ・シラバスは、バージョン5で新たに導入された、変更された、または拡張された概念にのみ焦点を当てており、ITIL 4 ファンデーションから変更のないトピックについては再評価を行いません。

ITIL®ファンデーションブリッジ (バージョン5) は、受験者にITIL 4 ファンデーションでは扱われていない、デジタルプロダクトおよびサービスマネジメントの主要な概念を紹介し、組織を超えて効果的なプラクティスを行うための共通言語を確立します。ITILフレームワークの概要を示し、中核となるモデルの更新や追加を含め、および基本概念を含めて説明するとともに、これらの要素がプロダクトやサービスの創出、提供、そして継続的な改善にどのように活用されるかを解説します。ファンデーションブリッジ (バージョン5) は、受験者が ITIL 4 の知識を基盤として発展させるとともに、pプロダクトとサービスの効果的なマネジメントを通じて、どのように価値が共創され得るかを理解できるようにします。また、ITILフレームワークが、現代のテクノロジー、データに基づく意思決定、自動化、AI（人工知能）、そして現代的な働き方を支援するように進化してきたことに加え、さまざまな組織の状況や成熟度レベルに適応可能な状態を維持していることについても説明します。

ITIL®ファンデーションブリッジ (バージョン5) 試験は、以下のシラバスで説明されているように、受験者がITIL (バージョン5) フレームワークを十分に記憶および理解し、ITILファンデーション (バージョン5) 認定資格を取得できる知識を有しているかを評価することです。この認定資格は、ITIL (バージョン5) の上位資格取得の前提条件となります。

2. 試験の概要

持ち込み可能な資料	なし	この試験は「持ち込み不可」です。『ITILファンデーション』 (バージョン5) の公式書籍や推奨の学習教材を試験中に参照することは禁止されています。
試験時間	30分間	母国語または業務で使用している言語以外での言語で試験を受ける受験者には25%の延長が認められ、制限時間は38分間になります。
配点	20点	20個の設問があり、1問につき1点です。点数がマイナスになることはありません。
合格点	13点	受験者は試験に合格するために13問 (65%) を正解する必要があります。

<p>ブルームレベル (BL)</p>	<p>BL1 および 2</p>	<p>「ブルームレベル」は、設問に答えるために必要な思考のタイプを表します。ブルームレベル1の問題では、受験者はITILフレームワークに関する情報を想起する必要があります。ブルームレベル2の問題では、受験者はこれらの概念についての理解を示す必要があります。</p>
<p>設問のタイプ</p>	<p>多肢選択式問題</p>	<p>設問はすべて「多肢選択式」です。</p> <p>「標準」の設問には、設問文とそれに対する答えとして4つの選択肢が提示されます。</p> <p>「否定形」の設問は、文章が否定形になっている「標準」の設問です。</p> <p>「語句の穴埋め」の設問では、ある語句が抜けた文章が提示され、その抜けた語句を4つの選択肢の中から選択します。</p> <p>「リスト」の設問では、4つの記述のリストが提示され、その中から正解を2つ選択する必要があります。</p>

3. 設問のタイプ

多肢選択式問題はすべて客観テスト問題（OTQ：Objective Test Question）です。4つの選択肢の中から正解を1つ選択してもらいます。間違った選択肢（不正解）は、知識またはスキルが不十分な受験者が選択する可能性です。一般的にこれらの選択肢は、試験対象のシラバスの領域に関連するもっともらしい回答となっています。OTQ設問形式には、「標準」、「語句の穴埋め」、「リスト」（正解が2つ）、および例外的に使用される「否定形」の標準OTQがあります。

「標準」のOTQの例：

ベストプラクティスのソースはどれですか？

- A. Q
- B. P
- C. R
- D. S

「リスト」のOTQの例：

サービス資産管理および構成管理の説明として、**正しい**記述はどれですか？

- 1. Qを行うこと
 - 2. Pを行うこと
 - 3. Rを行うこと
 - 4. Sを行うこと
- A. 1および2
 - B. 2および3
 - C. 3および4
 - D. 1および4

注：リストのアイテムのうち、2つが正解です。リスト形式の設問は、否定形になることはありません。

「語句の穴埋め」のOTQの例：

以下の文章で、空欄に入る適切な語句を選択してください。

[?]はサービスの要件を定義し、サービス消費の成果に対して責任を負う。

- A. 役職Q
- B. 役職P
- C. 役職R
- D. 役職S

「否定形」の標準OTQの例：

定義された価値の領域では**ない**ものはどれですか？

- A. Q
- B. P
- C. R
- D. S

注：否定形の設問は、例外的に、学習成果の一部として「行われなかったこと」や「起こるべきではないこと」を理解している必要がある場合にのみ使用されます。

模擬試験で練習し、試験の形式や問題の種類、難易度のレベルを理解して、自信を持って試験に臨みましょう。

4. シラバス

下表は、ファンデーションブリッジ（バージョン5）試験のカテゴリおよびトピックと、学習コースの修了後に受験者の学習成果の達成度をアセスメントするための基準を示しています。

注：公式書籍の参照箇所は括弧内に示されています。これらの参照先はセクションです。セクション内のサブセクションではありません。各アセスメント基準に使用される動詞は、以下のようにブルームのレベル（BL）を示します。「思い出す」/「定義する」は、レベル1の基本的な記憶および認識を示し、「述べる」/「説明する」は、レベル2の理解および知識を示します。

カテゴリ	トピック	アセスメント基準		BL
1. 主要なITIL用語と定義	1.1 プロダクトおよびサービスマネジメント	1.1.1	デジタルプロダクトおよびサービスマネジメントにおける主要な概念として、サービス、プロダクト、デジタルプロダクトとデジタルサービスを定義する（3.1.1、3.1.2、用語集）	1
		1.1.2	デジタルプロダクトおよびサービスマネジメントにおける主要な概念として、ITILプロダクトおよびサービスライフサイクルを定義する（4.1）	1
		1.1.3	有用性、保証、ユーザー体験、持続可能性を定義する（3.2.4）	1
	1.2 サービス提供物	1.2.1	商品、サービス提供物、サービス活動、商品の移転、リソースへのアクセスを定義する（3.1.2）	1
		1.2.2	サービス提供物、サービス活動、商品の移転、リソースへのアクセスを説明する（3.1.2）	2
	1.3 価値共創	1.3.1	価値と価値共創を定義する（3.1.1）	1
		1.3.2	コストとリスクを定義する（3.1.1.2、3.1.1.3）	1
		1.3.3	アウトプットと成果を定義する（3.1.1.1）	1
		1.3.4	アウトプットと成果の違いを理解する（3.1.1.1）	2
	1.4 サービス関係	1.4.1	サービス関係の主要な概念として、組織、サービスプロバイダ、サービス消費者、デジタルプロダクトベンダーを定義する（3.2.1）	1

カテゴリー	トピック	アセスメント基準	BL
		1.4.2 サービス関係の主要な概念として、基本関係、協力関係、協働関係（パートナーシップ）を定義する（3.2、3.2.2）	1
		1.4.3 サービス関係における主要な概念としてサービスジャーニーを定義する（3.2.3）	1
		1.4.4 サービス関係の主要な概念として、スポンサー、顧客、ユーザーの役割を定義する（3.2.1.1）	1
		1.4.5 サービス関係の主要な概念として、サービス品質とサービスレベルを定義する（3.2.4）	1
		1.4.6 サービス関係の主要な概念として、サービスレベルアグリーメント（SLA）を定義する（3.2.5）	1
		1.4.7 サービス関係におけるサービスプロバイダー、サービス消費者とデジタルプロダクトベンダーの役割を理解する（3.2.1）	2
		1.4.8 基本関係、協力関係、協働関係（パートナーシップ）の違いを理解する（3.2.3）	2
		1.4.9 サービス関係における主要な概念として、有用性、保証、ユーザー体験と持続可能性を説明する（3.2.4、3.2.4、3.2.3、3.2.4）	2
2. ITILプロダクトおよびサービスマネジメントの4つの側面	2.1 ITILプロダクトおよびサービスマネジメントの4つの側面の概要	2.1.1 ITILプロダクトおよびサービスマネジメントの4つの側面を列挙する：組織と人材、パートナーとサプライヤー、情報とテクノロジー、バリューチェーンとプロセス（2.1）	1
		2.1.2 ITILプロダクトおよびサービスマネジメントの4つの側面（2.2～2.5）のそれぞれの範囲を理解する	2

カテゴリ	トピック	アセスメント基準		BL
		2.1.3	ITILプロダクトおよびサービスマネジメントの4つの側面における包括的アプローチの重要性を説明する (2.1)	2
	2.2 内的要因と外的要因	2.2.1	ITILプロダクトおよびサービスマネジメントの4つの側面に影響を与える外部要因を知る：政治的、経済的、社会的、技術的、法的、環境的 (PESTLE) (2.1)	1
		2.2.2	ITILプロダクトおよびサービスマネジメントの4つの側面として、「組織と人材」、「パートナーとサプライヤー」、「情報とテクノロジー」、「バリューチェーンとプロセス」を説明する (2.2-2.5)	2
3. ITILプロダクトおよびサービスライフサイクル	3.1 ITILプロダクトおよびサービスライフサイクルの概要	3.1.1	デジタルプロダクトおよびサービスライフサイクル管理活動を列挙する：発見、設計、取得、構築、移行、運用、提供、サポート (4.1)	1
		3.1.2	ITILプロダクトおよびサービスライフサイクルと、バリューチェーン活動がそれをどのように実現するかを理解する (4.1)	2
		3.1.3	デジタルプロダクトおよびサービスライフサイクル管理活動は、順序どおりの直線的なものではないこと、そしてそれらを反復的に活用できることを理解する (4.1)	2
	3.2 デジタルプロダクトおよびサービスライフサイクル管理活動の目的	3.2.1	各デジタルプロダクトおよびサービスライフサイクルマネジメント活動 (4.2.1、4.3.1、4.4.1、4.5.1、4.6.1、4.7.1、4.8.1、4.9.1) の目的を把握していること	1

カテゴリ	トピック	アセスメント基準	BL	
4. ITILバリューシステム	4.1 ITILバリューシステムの構成要素	4.1.1	ITILバリューシステムの構成要素と、それらが組織内で果たす役割を知る：従うべき原則、ガバナンス、バリューチェーン、管理プラクティス、継続的改善 (5.1)	1
		4.1.2	ITILバリューシステムとその目的を説明する (5.1)	2
	4.2 ITIL従うべき原則	4.2.1	ITIL従うべき原則の相互作用と、それがどのように連携して機能するかを説明する (5.2.8)	2
	4.3 ガバナンス	4.3.1	ガバナンスを定義する (5.3.1)	1
		4.3.2	ガバナンスが持つ実現的な役割とその活動内容を説明する (5.3.1)	2
	4.4 バリューチェーン	4.4.1	バリューチェーンを定義する (2.3.1)	1
		4.4.2	プロダクト仕様、プロダクトプロトタイプ、テスト、リリース、およびサービス要求を定義する (4.3.1、4.5.1、4.6.2、4.8.2)	
		4.4.3	継続的インテグレーション、継続的デリバリー、継続的デプロイ、信頼性、サイトリライアビリティエンジニアリング (SRE)、およびオブザーバビリティを定義する (4.5.2、4.6.2、4.7.1)	1
		4.4.4	災害とエラーを定義する (4.9)	1
		4.4.5	オペレーティングモデルを定義する (5.4.1)	1
		4.4.6	問題、エラー、既知のエラーを区別する (4.9)	2
		4.4.7	バリューチェーン活動の成功を測る主要な指標を理解する (表4.1~4.8)	2
		4.4.8	組織の目的とオペレーティングモデルが、バリューチェーン活動および管理プラクティスによってどのように支えられているかを説明する (5.4.1)	2

カテゴリ	トピック	アセスメント基準		BL
	4.5 管理プラクティス	4.5.1	管理プラクティスを定義し、管理プラクティス群を知る（一般的なプロダクトおよびサービスマネジメントのプラクティス）（5.5）	1
		4.5.2	ITILバリューシステムにおける管理プラクティスの役割を理解する（5.7）	2
		4.5.3	ITIL公式プラクティスガイドの構造と恩恵を説明する（5.5.1）	2
		4.5.4	測定基準および重要成功要因（CSF：Critical Success Factor）を定義する（用語集，5.6.1.3）	1
	4.6 ITIL継続的改善モデル	4.6.1	ITIL継続的改善モデル（5.6.1）のステップを列挙する	1
		4.6.2	ITIL継続的改善モデルの各ステップ（5.6.1.1～5.6.1.7）を理解する	2
		4.6.3	ITILバリューシステムにおける継続的改善と、その組織内での役割を説明する（5.7）	2
5. バリューストリームの特定、マッピング、および管理	5.1 バリューストリームマッピングと管理の主要概念	5.1.1	バリューストリーム、コアバリューストリーム、イネープリングバリューストリーム、バリューストリームマッピング、バリューストリーム管理、および複雑性思考を定義する（2.3.1、6.2、6.3、6.4、2.3.2）	1
		5.1.2	コアバリューストリームとイネープリングバリューストリームの違いを理解する（6.2）	2
		5.1.3	ワークフローを複雑さに応じて最適化する必要性を理解する（2.3.2）	2
	5.2 バリューストリームマッピングおよび管理の目的	5.2.1	バリューストリームマッピングおよび管理の目的を知る（6.1）	1
		5.2.2	バリューストリームマッピングとバリューストリーム管理の関係を理解する（6.3、6.4）	2
		5.2.3	バリューストリームマップの要素を理解する（6.3）	2

カテゴリー	トピック	アセスメント基準		BL
6. ITILとAI	6.1 AIの概要	6.1.1	AI（人工知能）、AI成熟度、GenAI、およびエージェント型AIを定義する（2.4.1.1、用語集）	1
		6.1.2	プロダクトおよびサービスの開発ライフサイクルにおいて、AIがどのように支援できるか、またそのライフサイクルの活動全体にわたる自動化をAIがどのように支援できるかを理解する（2.4.1.1）	2
		6.1.3	AIをITILバリューチェーン活動全体でどのように活用できるかを理解する（2.4.1.1）	2
	6.2 ITIL AIガバナンス	6.2.1	AIガバナンスを定義する（2.2.5、用語集）	1
		6.2.2	ITIL AI能力モデル（2.4.1.1）を理解する	2
7. ITILとその他のフレームワーク	7.1 ITILとDevOps	7.1.1	ITILとDevOpsをどのように組み合わせて活用できるかを理解する（7.3、7.3.1）	2
		7.1.2	ITILとDevOpsが、プロダクトおよびサービスライフサイクル管理においてどのように相互補完的な関係にあるかを理解する（7.3、7.3.1）	2
	7.2 ITILとPRINCE2	7.2.1	ITILにおいてプロジェクト管理が重要である理由を理解する（7.3、7.3.2）	2
		7.2.2	ITILとPRINCE2が、プロダクトおよびサービスライフサイクル管理においてどのように相互補完的な関係にあるかを理解する（7.3、7.3.2）	2

5. 試験仕様

試験は以下のような構成になっています：

カテゴリ	比重の割合%
1. 主要なITIL用語と定義（バージョン5）	30.0%
2. ITILプロダクトおよびサービスマネジメントの4つの側面	10.0%
3. ITILプロダクトおよびサービスライフサイクル	25.0%
4. ITILバリューシステム	20.0%
5. バリューストリームの特定、マッピング、および管理	10.0%
6. ITILとAI	0.0% – 5.0%
7. ITILとその他のフレームワーク	0.0% – 5.0%
合計	100%

ブルームレベルに関しては、試験はBL1の問題が40%、
BL2の問題が60%で構成されています。

このコースを修了していただき、 ありがとうございます!

コースでの経験や学習について、オンライン評価アンケートを完了した後、
こちらからフィードバックをお寄せください。

